

クラス番号	609	担当教員名	渡邊 忍
テーマ	子ども、家族（家庭）、地域を支える実践的ソーシャルワークを学ぶ		
著書・論文	「実践的ソーシャルワーカーを育てる－大学と児童家庭福祉の現場をつなげる取り組み－」 『子どもと福祉』明石書店 Vol.8,P115-P122 2015年		
研究課題等	「福祉と養護」日本福祉大学テキスト P35～P146 2014年 「子ども虐待対応の手引き」P282～P285 厚生労働省 2013年 「親子に役立つ非行相談援助法①～⑧」『そだちと臨床』明石書店 2007年～2011年		

ゼミナール概要

キーワード：子ども・家族領域のソーシャルワーク／地域支援／事例から学ぶ／心理・社会的支援／児童福祉施設

目的、：

子ども・家族を支援する施設・相談機関分野のソーシャルワーカー（支援者）などの専門職養成を目指して、価値や倫理、さらには知識や技術を身につけることを目的に、子どもの貧困、児童虐待、子育て支援、いじめ、非行・犯罪、発達障害、不登校・引きこもりなどの「生きた事例」から学び、実践現場のフィールドをもとに学習を進めていきます。

授業計画（内容、方法等）：

3年次は、①自分を理解し、一人ひとりのゼミ生の興味・関心を確認していきます。②次に、グループ別で「生きた事例」から学ぶ事例検討を進めていきます。その過程では、心理・社会的なアセスメントとプランニングを中心にグループ討議を行います。③時には、ロールプレイを行い、録画して自らの面接技法などの振り返りを行います。④また、現場で活躍しているソーシャルワーカーや「当事者」などを呼び、現場のリアリティーを学んでいきます。⑤授業以外でも、児童福祉施設などでのアルバイトやボランティア活動に取り組んで欲しいと思っています。希望する学生には、ボランティア先など紹介します。なお、2015年度は「ファミリーホームの支援」に取り組み、ゼミ生たちはファミリーホームで暮らす子どもたちのグループワークを「実践」しました。夏休みには、ゼミ生が関心を持ったテーマの「レビュー論文（先行研究）」をまとめ、「夏合宿」で報告していただきます。

後期は、ソーシャルワーク実習の振り返りとともに、事例検討や実際にフィールドに出て資料・情報収集などを行います。また、他大学との「合同ゼミ」なども考えています。12月には卒業論文の第1回中間報告会を予定しています。

4年次は、これまで温めてきた興味・関心を卒業論文に向けて取り組んでいきます。子ども・青年・家族・支援者など対象を絞り込む、抱えている課題（テーマ）を絞り込む、実践現場（フィールド）を絞り込むことをとおして、理論研究、実践研究、事例研究、調査研究、など自分ができる方法で取り組んでみてください。

希望者は、ソーシャルワーク専門実習（子ども・家庭等支援分野）に是非チャレンジしてほしいと思っています。

5、6月に10日間の実習期間で、行政機関、社会福祉法人、NPO法人の相談・支援機関で実習を行うことができます。ソーシャルワーク専門実習では、ゼミとは別の単位が出せる実習です。この実習で、卒業論文のテーマをより深めていくことが可能となります。なるべく早く卒業論文に取り組み、後期の残りの時間は「社会福祉士国家試験対策」にも取り組みたいと考えています。

その他：

このゼミは2015年度から開講しています。皆さんは「第2期生」です。エントリーシートには、①子ども・家族（家庭）福祉に関心を持った理由、②特に、関心がある領域とその理由、③あなたの出身地と名物、④あなたの長所と短所、⑤やってみたい（やっている）ボランティア活動、⑥ゼミに対する期待、など書いてください。

担当教員からのメッセージ



私は臨床心理士と社会福祉士の二つの資格を持っています。それは長年、児童養護施設、福祉事務所、児童相談所で実践・研究をしながらたどり着いた結果でした。大学教員となり、児童家庭福祉論やソーシャルワーク論を教えながら、現在も「学校支援（スクールカウンセラー）」や「子ども・家族を支える地域支援（行政機関やNPO法人の研修担当やスーパーバイザー役など）」にもかかわり続けています。

将来、これらの分野のソーシャルワーカーなどを目指したいと思っている学生たちにとって、実践的な学びの場となるようにしていきたいと思っています。もちろん、ゼミに集まる一人ひとりの学生の「こだわり」や「個性」を大切にしながら、仲間作り、合宿やコンパでの語り合い、など進めていきます。そして、「第2期生」として、卒業後も支え合うことができるようなゼミにしていきたいと願っています。どうぞよろしくお願ひします。